

法華經 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

1日

友引 女

旧6月15日

火曜

妙法蓮華經方便品第二

べん ぬ ね はん のん ぎゆう い あ ら かん

便有涅槃音 及び阿羅漢

「すなわち涅槃の音 及び阿羅漢」

常に變化する世の中で変わらぬ仏さまの教えは言葉で伝えることができません。

そこで、お釈迦さまは初めての説法「初転法輪」において五比丘に対して、教化の手立てとして方便を用いて説かれました。

その結果、「涅槃(苦悩を滅した状態)」「阿羅漢(苦悩を除き尽くした修行者)」「法(常に変わらぬ仏さまの教え)」「僧(仏さまの教えを伝える者)」という方便の言葉が使われました。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

2日

先負 虚

旧6月16日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

しょうじき しゃ ほう べん

正直捨方便

たん ぜつ む じょう どう

但説無上道

「正直に方便を捨てて ただ無上道を説く」

これまで様々な方便の教えを用いて、相手に応じて低いところから高いところへと導いてきたお釈迦さまが、今その方便を捨てて仏に成るためのこの上ない道を説くと宣言されました。

初転法輪から四十余年、方便の教えで導かれてきた人々が菩薩の道を歩み仏に成れる存在になったと認められたからこそ、無上道〓仏に成る道を説かれたのです。

何事も認められるまでが大変ですね。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

3日

仏滅 危

旧6月17日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

如によ三世諸仏さんぜしよぶつ 説法せつぽう之儀式しぎしき

「三世諸仏の説法の儀式の如く」

過去・現在・未来どの時代も仏さまが教えを説く際には、先に方便を説き、最後に真実を説くという共通の儀式があります。

方便の教えは、建築現場の足場のようなもので、建物が完成すると取り払われる足場がなければ建物は建ちません。

建築の段取りと同じように、仏さまの説法にも儀式(段取り)があり、方便の教え(足場)は無くしてはならない大事なもののなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

4日

大安 室

旧6月18日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

無量無数劫 聞是法亦難

むりよう むしよ こう もん ぜ ほう やく なん

「無量無数劫にも この法を聞くこと亦難し」

正しい心を持っていながら、縁がなく仏さまの教えを聞くことができず、迷いから抜け出せない人がたくさんいます。

仏さまの教えを聞いても、心の中に受け入れるのは、なお難しいことです。

仏さまの教えを聞いて「なるほどな」「ありがたいな」と思ったその瞬間が、ありえないほど稀で貴重な機会なのです。

その瞬間、仏さまへの道が開かれるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

5日

赤口 壁

旧6月19日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

もんぼう かんぎ さん

聞法歡喜讚

ないし ほつ いちごん

乃至發一言

そく い いくよう

則為已供養

いっさいさん ぜ ぶつ

一切三世仏

「法を聞いて歡喜し、諸仏を讚える」

仏さまの教えを聞いて心に歡喜を感じ、一言でも仏さまは「ありがたい」と發するならば、過去・現在・未來の三世の仏さまを讚え供養することになります。

僧侶が法要の最初に唱える「勸請文」でこの「聞法歡喜讚」一切三世仏の文を唱えることがあります。法要を始めるにあたり、教えを聞いて歡喜し、諸仏を讚え、その教えに従って生きる決意を示すためです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

6日

先勝 奎

旧6月20日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

無む声しょう聞もん弟子でし

「声聞の弟子はいない」

方便の教えを聞いて満足し、それで終わるよ
うなものは真の弟子ではないというお釈迦さ
まの厳しいお言葉です。

方便の教えの中にも仏さまの真意は含まれて
います。その方便の教えを学んできた声聞た
ちも皆、悟りを求める菩薩です。

そして、自分だけが悟ることに満足せず、世
間のすべての人を救おうと努める者が真の弟
子であるとお釈迦さまは激励されたのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

7日

友引 婁

旧6月21日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

とうらいせあくにん
当来世悪人

「当来世の悪人」

世も末になって人の心も濁り、仏さまの教えを信じないばかりか、信心している人たちの邪魔をして、自分と同じ無信心に引き込もうとする人を「当来世の悪人」といいます。しかし、悪人もいますが、仏さまの教えを聞いて信仰に目覚める善人もいます。その善人が集まり大きな力になって仏さまの教えが広まり、悪人も感化するような世の中になるよう努めましょう。

妙法蓮華經方便品第二

是名轉法輪 便有涅槃音 及以阿羅漢 法僧差別名 從久遠劫來 讚示涅槃法

〔略〕

今我喜無畏 於諸菩薩中 正直捨方便 但說無上道 菩薩聞是法 疑網皆已除

千二百羅漢 悉亦當作仏 如三世諸仏 說法之儀式 我今亦如是 說無分別法

諸仏興出世 懸遠值遇難 正使出于世 說是法復難 無量無數劫 聞是法亦難

能聽是法者 斯人亦復難 譬如優曇華 一切皆愛樂 天人所希有 時時乃一出

聞法歡喜讚 乃至發一言 則為已供養 一切三世仏 是人甚希有 過於優曇華

汝等勿有疑 我為諸法王 普告諸大衆 但以一乘道 教化諸菩薩 無声聞弟子

汝等舍利弗 声聞及菩薩 当知是妙法 諸仏之秘要 以五濁惡世 但樂著諸欲

如是等衆生 終不求仏道 当來世惡人 聞仏說一乘 迷惑不信受 破法墮惡道

有慙愧清淨 志求仏道者 当為如是等 広讚一乘道 舍利弗当知 諸仏法如是

以万億方便 随宜而說法 其不習學者 不能曉了此 汝等既已知 諸仏世之師

随宜方便事 無復諸疑惑 心生大歡喜 自知当作仏

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

8日

立秋

先負 胃

旧6月22日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

じ ち どう き ぶつ

自知当作仏

「自らまさに作仏すべしと知れ」

方便品は、舍利弗に向かつて仏の智慧は理解できないという辛辣な言葉で始まりました。しかし方便品の最後では、今の立場が声聞、縁覚、菩薩であつても、仏の本心である一仏乗を信じ菩薩行を実践することで仏に成れるとお釈迦さまは舍利弗に説かれました。これが法華経の寛容さであり、仏さまの本心に気づき信じることで誰もが成仏に向かうことができます教えだという証しです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

9

日

仏滅 昂

旧6月23日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ゆ やつ かん ぎ

踊躍歡喜

「躍り上がるほどに喜ぶ」

方便品の説法で、自分たちのような者でも仏に成れるとお釈迦さまが請け負ってくださったことに、舍利弗は躍り上がるほどに大いに喜び、合掌し、お釈迦さまを仰ぎ見て、感謝の思いを伝えました。

しかし、実際に踊り上がり、からだ全体で喜びを表現したのではなく、お釈迦さまの思いが染み渡るように心に満ちてきた際の静かで深い喜びを表しているのだと思います。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

10日

大安 畢

旧6月24日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

授記作仏

「仏と成る約束を得る」

「記」とは約束のこと。

今の心持ちのまま、緩むことなく、たゆみなく、菩薩の道を歩んで行けば、仏の境界にたどり着くという約束です。

無条件の約束ではなく、世のため人のために尽くし、仏さまの教えを弘めるという「菩薩道」を進むことを条件とした約束です。

法華経を読めばすぐに仏に成れると、勘違いしないように

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

11日

赤口 鶯

旧6月25日

日 金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

甚じん自じ感かん傷しょう

「道を見失っているのではないかという不安」

舍利弗は、今まで自分たちは仏に成るという約束（授記）を受けることができないのは、お釈迦さまのこの上ない教えを見失っているからだと心を痛めていました。

修行を続けても、このまま仏さまの勝れた智慧を得ることができずに終わってしまうのではないかと不安を抱いていたのでしよう。

逆にそれだけ什器を受けた際の喜びの大きさが伝わってきます。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

先勝 参

旧6月26日

12日 土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

が じょう どく しょ

我常独处

「我は常に独りで修行していた」

舍利弗は、独り山の中の樹の下で、坐ったり歩いたりしながら、自己を鍛え、周囲の境遇に左右されず、苦悩を除くことができるようになったと思っていました。

その頃はまだ、お釈迦さまは世のため人のために尽くせと菩薩道を説かれませんでした。

仏さまの真意を受け止める機根が整うまで、ひたすら待ってくださったお釈迦さまの慈悲の表れでもあるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

13日

友引 井

旧6月27日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

まい じ こく しゃく

毎自剋責

「常に自らを責める」

舍利弗たちは、お釈迦さまが方便の教えを説かれているときに、それがさらに深い教えへ導くための手立てだと気づかず、浅い教えだと思い込んでいました。

そして、自分に力がないから浅い教えしか説いてくださらないのだと自分を責めました。

お釈迦さまは、皆に十分に悩み考えさせて、さらに上の教えを求めようという決意が整うのを待って、大事な教えを説かれたのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

14日

先負 鬼

旧6月28日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

こん にち ない ち

しん ぜ ぶつ し

今日乃知 真是仏子

「今日初めて自分たちは仏の子であると知った」

お釈迦さまから授記を受けた舍利弗は、これまでの疑問や自責が消え、心が安らかになっ
ていきました。

長い間修行した後のお釈迦さまの説法が心に
染みたのでしよう。

「今日初めて仏さまの子であることを知った」
という舍利弗の感激の言葉です。

仏の子として仏さまの教えを世に広める仲間
入りをした決意の言葉でもあります。

妙法蓮華經譬喻品第三

爾時舍利弗。踊躍歡喜。即起合掌。瞻仰尊顏。而白仏言。今從世尊。聞此法音。心懷踊躍。得未曾有。所以者何。我昔從仏。聞如是法。見諸菩薩。受記作仏。而我等不預斯事。甚自感傷。失於如來。無量知見。世尊。我常独处。山林樹下。若坐若行。每作是念。我等同入法性。云何如來。以小乘法。而見濟度。是我等咎。非世尊也。所以者何。若我等。待說所因。成就阿耨多羅三藐三菩提者。必以大乘。而得度脫。然我等。不解方便。隨宜所說。初聞仏法。遇便信受。思惟取証。世尊。我從昔來。終日竟夜。每自剋責。而今從仏。聞所未聞。未曾有法。斷諸疑悔。身意泰然。快得安穩。今日乃知。真是仏子。從仏口生。從法化生。得仏法分。爾時舍利弗。欲重宣此義。而說偈言

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

15日

仏滅 柳

旧6月29日

火曜

妙法蓮華経譬喩品第三

金色三十二

「仏さまの三十二の身体的特徴」

三十二相とは仏さまの徳が身体にあらわれた三十二の特徴。『大智度論』によると次の通り。

- ① 足下安平相、② 足下二輪相、③ 長相④ 足跟広平相、⑤ 手足指縵網相、⑥ 手足柔軟相、⑦ 足扶高満相、⑧ 伊泥延棍相、⑨ 正立手摩膝相、⑩ 陰蔵相、⑪ 身広長等相、⑫ 毛上向相、⑬ 一一孔一毛生相、⑭ 金色相、⑮ 丈光相、⑯ 細薄皮相、⑰ 七處隆満相、⑱ 兩腋下隆満相、⑲ 上身如師子相、⑳ 大直身相、㉑ 肩円好相、㉒ 四十齒相、㉓ 齒齊相、㉔ 牙白相、㉕ 師子頬相、㉖ 味中得上味相、㉗ 大舌相、㉘ 梵声相、㉙ 真青眼相、㉚ 牛眼睫相、㉛ 頂髻相、㉜ 白毛相

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

16日

先勝 畢張

旧7月1日

水曜

妙法蓮華経譬喩品第三

じゆう りき しょ げ だつ

十力諸解脱

「十種の力によって解脱に至る」

「十力」とは仏の具える次の十種の力のこと。

- ① 処非処智力、
- ② 業異熟智力、
- ③ 静慮解脱等持等至智力、
- ④ 根上下智力、
- ⑤ 種々勝解智力、
- ⑥ 種々界智力、
- ⑦ 遍趣行智力、
- ⑧ 宿住隨念智力、
- ⑨ 死生智力、
- ⑩ 漏尽智力

「解脱」とは迷いを離れること。

仏さまは「三十二相」や「十力」によって「解脱」に至ります。

仏道を歩む私たちもそうありたいものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

17

日

友引 翼

旧7月2日

木曜

妙法蓮華経譬喩品第三

はち じつ しゆ みよう こう
八十種妙好

「仏さまが具える八十の身体的特徴」

「八十種妙好」とは、仏・菩薩が身に具える八十種の身体的特徴のこと。

「八十種妙好」は、「三十二相」をさらに細かく分けたもので、意味もほぼ同じです。

また、前後左右の四方とその間を入れた「八」という数は、すべての物が揃うということの意味し、「八」の倍数である「三十二」や「八十」は、全ての美しい相が備わっていることを示しています。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

18日

先負 軫

旧7月3日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

じゅう

はち

ふ

ぐ

ほう

十八不共法

「仏さまだけが具える十八の力」

「十八不共法」とは仏さまにだけ具わっている十八の勝れた特質。

仏さまに特有のもので二乗や菩薩と共有しないところから不共法といっています。

①身無失、②口無失、③念無失、④平等心、⑤無不定心、⑥無不知捨心、⑦欲無滅、⑧精進無滅、⑨念無滅、⑩慧無滅、

⑪解脱無滅、⑫解脱知見無滅、⑬一切身業随智慧行、⑭一切口業随智慧行、⑮一切意業随智慧行、⑯智慧知過去世無礙、⑰

智慧知未来世無礙、⑱智慧知現在世無礙。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

19日

仏滅 角

旧7月4日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

随ずい宜ぎ而に説せつ法ぼう

「宜しきに随って法を説く」

仏さまは相手に合わせて、浅くも深くも説いてくださいます。

修行がある程度まで進むと、深い教えが理解できるようになってきます。

しかし、力が足りなければ深い教えを聞いても理解できません。

仏さまが深い教えを説いてくださらないと嘆くのではなく、自分の力が足りないことを反省し、焦らず怠けず、修行に励みましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

20日

大安 亢

旧7月5日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

為諸梵志師

「諸々の梵志の師と為りにき」

「梵」は清浄の意味。

婆羅門は清浄な修行をし、宇宙の最高原理であるブラフマンを志求して、梵天に生れようと志すものであるから「梵志」といいます。

舍利弗は「梵志」の師、つまりバラモン教の指導者になっていた過去を省み、お釈迦さまが間違った考えを取り除き、悟りの道に導いてくれたことを知りました。

そして、本当の仏道を歩み始めたのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

21日

赤口 氏

旧7月6日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

しょう ひ ま さ ぶつ
将非魔作仏

「将に魔が仏となったのではないかと疑った」

二乗は仏心を失っているので成仏できないと法華経以前の經典ではいわれていました。

ところが法華経では二乗も仏になることができると聞いて舍利弗たちは大変驚きました。

悪魔が仏に姿を変えて「お前たちも成仏できる」と言ったのではないかと疑いました。

しかし、巧みな方便を用いたお釈迦さまの説法を理解するにつれて、疑いの気持ちは消えていくのです。

妙法蓮華經譬喻品第三

我聞是法音	得所未曾有	心懷大歡喜	疑網皆已除	昔來蒙仏教	不失於大乘
仏音甚希有	能除衆生惱	我已得漏尽	聞亦除憂惱	我處於山谷	或在林樹下
若坐若経行	常思惟是事	嗚呼深自責	云何而自欺	我等亦仏子	同入無漏法
不能於未來	演説無上道	金色三十二	十力諸解脱	同共一法中	而不得此事
八十種妙好	十八不共法	如是等功德	而我皆已失	我独経行時	見仏在大衆
名聞滿十方	広饒益衆生	自惟失此利	我為自欺誑	我常於日夜	每思惟是事
欲以問世尊	為失為不失	我常見世尊	称讚諸菩薩	以是於日夜	籌量如此事
今聞仏音声	隨宜而説法	無漏難思議	令衆至道場	我本著邪見	為諸梵志師
世尊知我心	拔邪説涅槃	我悉除邪見	於空法得証	爾時心自謂	得至於滅度
而今乃自覚	非是実滅度	若得作仏時	具三十二相	天人夜叉衆	龍神等恭敬
是時乃可謂	永尽滅無余	仏於大衆中	説我当作仏	聞如是法音	疑悔悉已除
初聞仏所説	心中大驚疑	將非魔作仏	惱乱我心耶	仏以種種縁	譬諭巧言説

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

22日

先勝 房

旧7月7日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

は じゆん む し じ

波旬無此事

「魔王波旬は眞実を説かない」

「波旬」とは、仏典に登場する仏や仏弟子を悩ます悪魔・魔王の名で、「魔波旬（マール・パーピマント）」とよばれます。

魔（マール）は殺す者の意。

心の安定（悟り）に対する不安定（煩惱）、新勢力（仏教）に対する旧勢力（バラモン教）の象徴とも考えられます。

自分の煩惱や、外部の圧力・固定観念にとらわれて悟りに至れないことが「魔」なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

23日

処暑

友引 心

旧7月8日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

えん

ちよう

しよう

じよう

ほう

演暢清浄法

「濁りのない清らかな教え」

仏さまは少しも煩惱を交えず、清らかに教えを説かれます。

信心すれば「お金が儲かる」「出世する」「病気が治る」など、煩惱に迎合するような教えは本当の教えではありません。

相手の要求を聞いてそれに合わせて教えを説いていたら、かえって煩惱を育てることになってしまいます。仏さまの教えは濁りのない清らかなものなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

24日

先負 尾

旧7月9日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

為無上道故 常教化汝

いむじょうどうこ じょうきようけによ

「無上道の為の故に 常に汝を教化す」

お釈迦さまは現世で悟りを得る以前にも、遙か遠い昔から人々を教化し悟りへと導いてきたことが明かされます。

『如来寿量品』に説かれる「久遠の本仏」のことが『譬喻品』にも説かれているのです。

仏さまはいついかなるときにも、同じように教えを説き、人々を仏に成る道へと導いてくださっていることが法華経の随所に説かれていることを心にとどめておきましょう。

法華經 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

25日

仏滅 箕

旧7月10日

金曜

妙法蓮華經譬喻品第三

為諸声聞

い しょ しょう もん

「声聞の為に説く」

『方便品』には「無声聞弟子（声聞の弟子なし）」とありましたが、ここでは「声聞の為に説く」とあります。

世の中の無常を感じ、世間に関わらない生き方をしている声聞たちも、やがては人々を導いて菩薩の道を歩む時が来る。

やがて菩薩になるのだから「声聞の弟子はいない」「声聞の為に説く」ということになるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

26日

大安 斗

旧7月11日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

とう

とく

さ

ふじ

当得作仏

「舍利弗の授記」

お釈迦さまは舍利弗に、説法を理解したの
ら、無量無辺不可思議劫という永い年月、千
億万の仏さまに供養できると告げました。

「供養」とは、物品を供え、感謝の心持ちで礼
拝し、教えを守った行いをする事です。

供養を続け、正しい教えを身に着けて、初め
て仏の境界に進むことができます。

仏に成ると約束されても、実際に仏に成るの
は容易なことではありません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

27日

赤口 女

旧7月12日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

け こう によ らい
華光如来

「仏の徳が遍く照らすという名の如来」

舍利弗は「華光如来」という名の仏に成ると授記を受けました。

「華」は、仏さまがあらゆる徳を具えていることの譬え、「光」はその徳が遍く周囲を照らすことの譬えです。

舍利弗が華光如来となった後には、その徳をもって世の中を照らしながら、今のお釈迦さまと同じように方便の教えを駆使して、真実の教えに導くことになるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

28日

先勝 虚

旧7月13日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

こく

みよう

り

く

国名離垢

「穢れのない世界」

「離垢」とは、舎利弗が華光如来となって教化する国の名前で、「垢＝穢れ」のない世界という意味です。

清らかで美しく、障害物もなく、宝石で飾られた樹に果実がなっている場所です。

舎利弗に仏に成れると授記を与え、仏の国の素晴らしさを伝え、自分が仏に成ることによって穢れのない国をつくるように努めよと、お釈迦さまは導かれています。

妙法蓮華經譬喻品第三

世尊說實道 波旬無此事 以是我定知 非是魔作仏 我墮疑網故 謂是魔所為

聞仏柔軟音 深遠甚微妙 演暢清淨法 我心大歡喜 疑悔永已盡 安住實智中

我定當作仏 為天人所敬 轉無上法輪 教化諸菩薩

爾時仏告。舍利弗。吾今於天。人。沙門。婆羅門等。大衆中說。我昔曾於。

二万億仏所。為無上道故。常教化汝。汝亦長夜。隨我受學。我以方便。

引導汝故。生我法中。舍利弗。我昔教汝。志願仏道。汝今悉忘。而便自謂。

已得滅度。我今還欲。令汝憶念。本願所行道故。為諸声聞。說是大乘經。

名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。舍利弗。汝於未來世。過無量無辺。

不可思議劫。供養若干。千万億仏。奉持正法。具足菩薩。所行之道。

當得作仏。号曰華光如來。応供。正氣知。明行足。善逝。世間解。無上士。

調御丈夫。天人師。仏。世尊。国名離垢。其土平正。清淨嚴飾。安穩豐樂。

天人熾盛。瑠璃為地。有八交道。黄金為繩。以界其側。其傍各有。七宝行樹。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

29日

友引 危

旧7月14日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

其劫名大宝莊嚴

「菩薩は国の大きな宝」

「劫」とは仏が出現される時代の名のこと。

華光如来の劫の名を「大宝莊嚴」といいます。

大きな宝とは菩薩のことを指します。

たくさんの菩薩の力によって世の中が清らか

になっていくので、国の大きな宝なのです。

菩薩は仏に成ろうと永い時間、徳を積み、智

慧を身に着けていきます。

私たちも菩薩の修行を積み、世のために尽く

して、宝となるように努めましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

先負 室

旧7月15日

水曜

30日

妙法蓮華経譬喻品第三

ぜ けんまん ぼ さつ じ とう き ぶつ

是堅満菩薩 次当作仏

ごうわつ けそくあんぎよう

号曰華足安行

「堅満菩薩が華足安行という仏に成る」

舍利弗が華光如来として十二小劫という永い時間教化した後、堅満菩薩に授記を授けることになり、その堅満菩薩は「華足安行」という名の仏に成るとお釈迦さまは告げられます。

「華足安行」とは、徳が十分にあって立派な行ないができるという意味です。

舍利弗が仏と成り、菩薩を教化し授記を与え涅槃に至り、それが繰り返されて、仏さまの教えは永遠に伝わっていくということです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

8月

仏滅 壁

旧7月16日

木曜

31日

妙法蓮華経譬喻品第三

しょうぼうじゆうせ

さんじゆうにしようこう

正法住世

三十二小劫

ぞうほうじゆうせ

やくさんじゆうにしようこう

像法住世

亦三十二小劫

「教えが伝わる時間」

「正法」とは仏法が仏さまのお心のままに行われている時代、仏法を学ぶだけではなく、実行する者が絶え間なく現れる時代です。

「像法」とは仏さまの教えが形だけ伝わっている時代、教えが理論として研究され、伝えられても、実践する者が少なくなる時代です。ちなみに「末法」は法が滅びていく時代です。舍利弗が華光如来として滅度した後、正法・像法ともに三十二小劫続くということです。

妙法蓮華經譬喻品第三

舍利弗。彼仏出時。雖非惡世。以本願故。說三乘法。其劫名大宝莊嚴。

何故名曰。大宝莊嚴。其國中。以菩薩為大宝故。彼諸菩薩。無量無辺。

不可思議。算數譬諭。所不能及。非仏智力。無能知者。若欲行時。宝華承足。

此諸菩薩。非初發意。皆久植德本。於無量百千万億仏所。淨修梵行。

恒為諸仏。之所稱歎。常修仏慧。具大神通。善知一切。諸法之門。質直無偽。

志念堅固如是菩薩。充滿其國。舍利弗。華光仏壽。十二小劫。除為王子。

未作仏時。其国人民。壽八小劫。華光如来。過十二小劫。授堅滿菩薩。

阿耨多羅三藐三菩提記。告諸比丘。是堅滿菩薩。次当作仏。号曰華足安行。

多陀阿伽度。阿羅訶。三藐三仏陀。其仏国土。亦復如是。舍利弗。是華光仏。

滅度之後。正法住世。三十二小劫。像法住世。亦三十二小劫。爾時世尊。

欲重宣此義。而說偈言